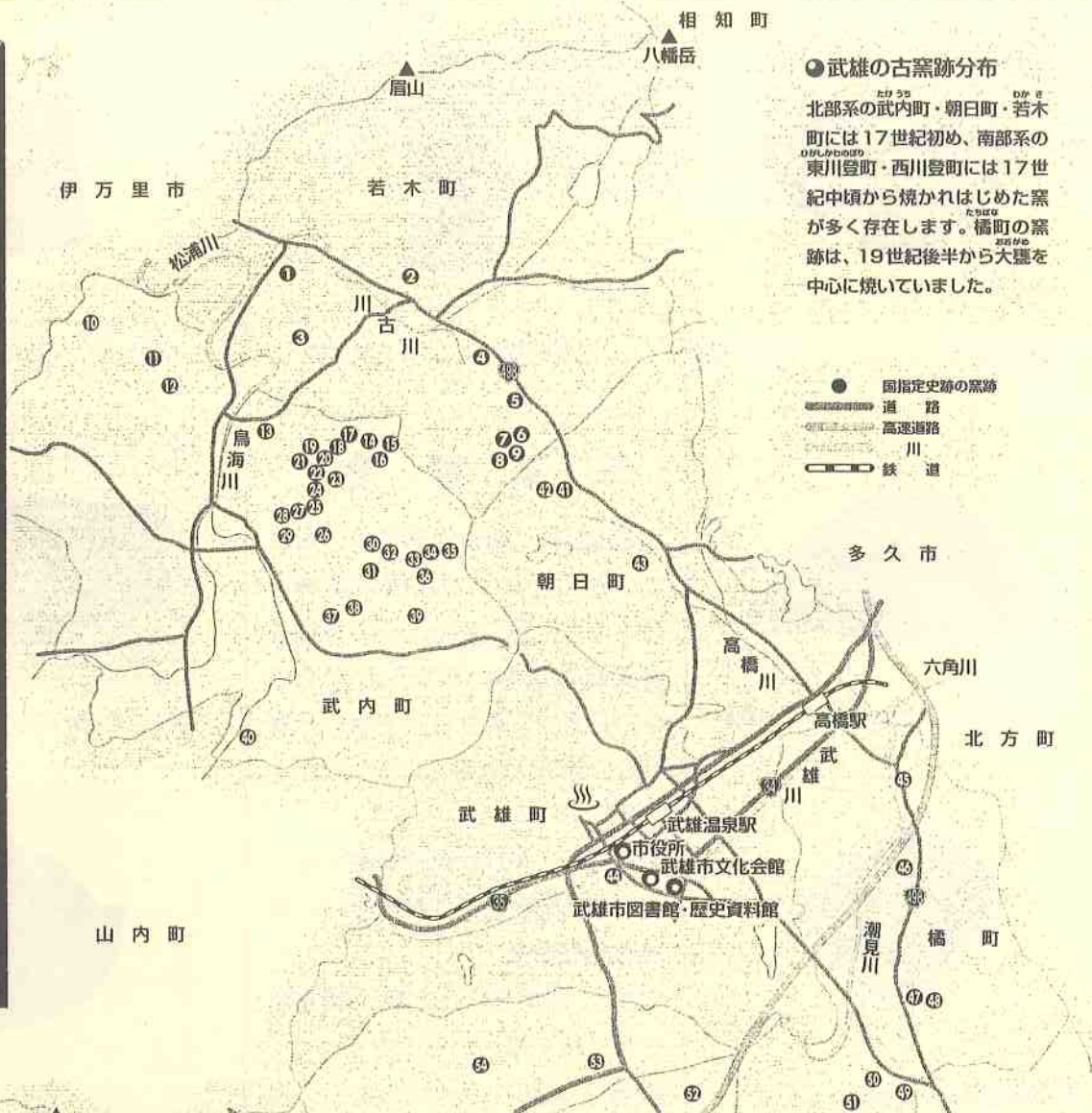


# 武雄の古窯跡地図



● 武雄の古窯跡分布  
 北部系の武内町・朝日町・若木町には17世紀初め、南部系の東川登町・西川登町には17世紀中頃から焼かれはじめた窯が多く存在します。橋町の窯跡は、19世紀後半から大遷を中心に焼いていました。

● 国指定史跡の窯跡  
 道路  
 高速道路  
 川  
 鉄道

## ● 市内古窯跡一覧表

- |          |         |          |           |            |            |          |               |               |           |                |                 |          |          |          |          |           |        |        |          |
|----------|---------|----------|-----------|------------|------------|----------|---------------|---------------|-----------|----------------|-----------------|----------|----------|----------|----------|-----------|--------|--------|----------|
| ① 山崎窯跡   | ② 大石窯跡  | ③ 叶松窯跡   | ④ 商人山窯跡群  | ⑤ 火口谷窯跡    | ⑥ 戸別当窯跡    | ⑦ 見上尾窯跡  | ⑧ 川古窯ノ谷右(上)窯跡 | ⑨ 川古窯ノ谷左(下)窯跡 | ⑩ 多々良下窯跡  | ⑪ 多々良上窯跡(西岳窯跡) | ⑫ 多々良上窯跡(安田原窯跡) | ⑬ 猪ノ古場窯跡 | ⑭ 七曲窯跡   | ⑮ 広高麓窯跡  | ⑯ 鏡谷窯跡   | ⑰ 水無窯跡    | ⑱ 丸尾窯跡 | ⑲ 幸平窯跡 | ⑳ 土師場物原山 |
| ① 山崎窯跡   | ② 大石窯跡  | ③ 叶松窯跡   | ④ 商人山窯跡群  | ⑤ 火口谷窯跡    | ⑥ 戸別当窯跡    | ⑦ 見上尾窯跡  | ⑧ 川古窯ノ谷右(上)窯跡 | ⑨ 川古窯ノ谷左(下)窯跡 | ⑩ 多々良下窯跡  | ⑪ 多々良上窯跡(西岳窯跡) | ⑫ 多々良上窯跡(安田原窯跡) | ⑬ 猪ノ古場窯跡 | ⑭ 七曲窯跡   | ⑮ 広高麓窯跡  | ⑯ 鏡谷窯跡   | ⑰ 水無窯跡    | ⑱ 丸尾窯跡 | ⑲ 幸平窯跡 | ⑳ 土師場物原山 |
| ②③ 新山窯跡  | ④ 新立山窯跡 | ⑤ 櫻ノ木山窯跡 | ⑥ 釜ノ頭窯跡   | ⑦ 白木原1号窯跡  | ⑧ 白木原2号窯跡  | ⑨ 小田志A窯跡 | ⑩ 小田志B窯跡      | ⑪ 小田志C窯跡      | ⑫ 小田志D窯跡  | ⑬ 豊屋A窯跡        | ⑭ 豊屋B窯跡         | ⑮ 板屋1号窯跡 | ⑯ 板屋2号窯跡 | ⑰ 板屋3号窯跡 | ⑱ 板屋4号窯跡 | ⑲ 板屋A地点窯跡 |        |        |          |
| ① 小野原旧窯跡 | ② 小野原窯跡 | ③ 上野玉島窯跡 | ④ 上野本登窯跡  | ⑤ 上野新窯跡    | ⑥ 焼山窯跡     | ⑦ 菅牟田窯跡  | ⑧ 小山路窯跡       | ⑨ 忠平谷窯跡       | ⑩ 豊屋窯跡    | ⑪ 下庭木窯跡        | ⑫ 担頭先窯跡         | ⑬ 弓野窯跡   | ⑭ 弓野新窯跡  | ⑮ 一ノ坂窯跡  | ⑯ 梅ノ木原窯跡 | ⑰ 土井木原窯跡  |        |        |          |
| ① 大谷窯跡   | ② 古屋敷窯跡 | ③ 小峠窯跡   | ④ 金山窯跡    | ⑤ 宇土ノ谷1号窯跡 | ⑥ 宇土ノ谷2号窯跡 | ⑦ 長吉谷窯跡  | ⑧ 長谷A地点窯跡     | ⑨ 焼ヶ峰1号窯跡     | ⑩ 焼ヶ峰2号窯跡 | ⑪ 黒尾窯跡         | ⑫ 三ノ丸窯跡         | ⑬ 鳴瀬古窯跡  | ⑭ 皿山窯跡   |          |          |           |        |        |          |
| ① 抵圖下窯跡  | ② 向家窯跡  | ③ 高麗屋窯跡  | ④ 山崎御立目窯跡 | ⑤ 祥古谷窯跡    | ⑥ 李祥古場窯跡   | ⑦ 杉ノ元窯跡  | ⑧ 古那甲ノ辻窯跡     | ⑨ 内田A地点窯跡     | ⑩ 一位ノ樹山窯跡 | ⑪ 一位ノ樹山B地点窯跡   | ⑫ 萱ノ谷窯跡         |          |          |          |          |           |        |        |          |

# 武雄の古窯跡

～発掘調査の成果～



鏡谷窯跡

◆ 平成13年9月22日(土)～10月21日(日)

午前9:00～午後5:00 月曜・祝祭日・第3木曜日は休館

◆ 武雄市図書館・歴史資料館 企画展示室 ◆ 入場無料

今回の企画展示は、400年の歴史をもつ武雄のやきものについて、窯の規模や生産年代を探るための調査や高速道路・ほ場整備に伴って発掘調査した17世紀代の窯跡出土品を展示いたします。

武雄でのやきもの生産は、16世紀末に豊臣秀吉の命で朝鮮国に侵攻した文禄・慶長の役(壬辰倭乱)で、武雄から出陣した後藤家信が陶工団を連れ帰ったのが始まりとされます。一団の長を深海宗伝といい、武内町内田に窯を築いたと伝えられています。宗伝は、磁器の製作も試みたようですが、陶石が悪く、ほとんどへたってしまったようです。彼の死後、妻百婆仙は一族を連れて有田町稗古場に移動しました。

発掘調査では、絵唐津を中心とする北部系の窯と二彩手を中心とする南部系の窯があり、それぞれに多様な装飾表現がなされています。当時を生き抜いた陶工達の繊細な感性と力強い生き様をごゆっくりと御観覧ください。

※地図には、江戸・昭和初期までの窯跡を示しています。





繪唐津草文小皿 (古屋敷窯跡)



辰砂唐津椀 (宇土谷窯跡)



青唐津小皿 (小山路窯跡)



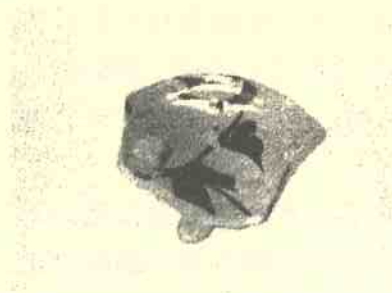
天目椀 (李祥古場窯跡)



黒唐津椀 (李祥古場窯跡)



繪唐津御所車文皿 (古屋敷窯跡)



繪唐津木葉文皿 (川古窯ノ谷下窯跡)

**繪 唐 津**

青唐津：木灰釉をかけて還元炎で焼いたもの。灰や土に含まれる鉄分により、青みがかって見えます。

黒唐津：木灰釉に鉄分が多量に入った釉をかけたもので、鉄の量や成分によって、黒、飴、柿色などに発色します。

辰砂唐津：銅釉を還元炎で焼き、赤く発色させたものをいいます。

繪唐津：鉄釉で絵付けをしたもの。文様は幾何学文を主体とした抽象文と、植物や動物・風景・人物を描いた具象文に分けられます。また、口縁部にのみ鉄釉をかけた皮鯨手も多くみられます。

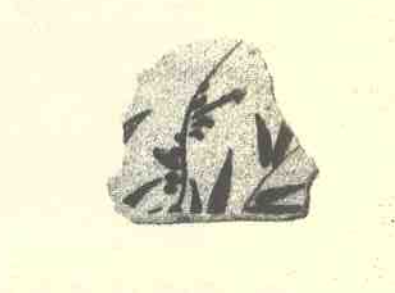
朝鮮唐津：藁灰釉と木灰釉を上下にかけ分けたものをいいます。



繪唐津草花文皿 (小山路窯跡)



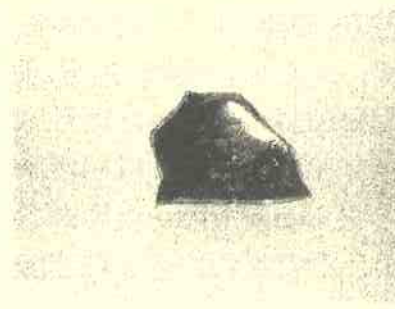
繪唐津草文小皿 (山崎御立目窯跡)



繪唐津草花文小皿 (小山路窯跡)



繪唐津芒文皿 (小山路窯跡)



繪唐津董文皿 (小山路窯跡)



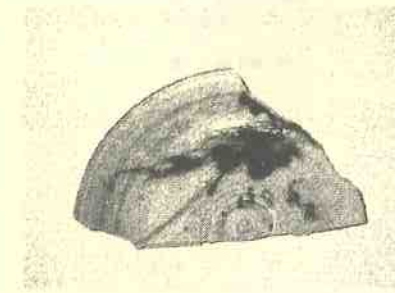
二彩唐津刷毛目文大皿 (土井木原窯跡)



三島象嵌鶴文大皿 (釜ノ頭窯跡)



三島象嵌花卉文大皿 (古屋敷窯跡)



二彩唐津松文皿 (川古窯ノ谷下窯跡)



型紙摺花籠文皿 (小峠窯跡)



二彩唐津瓶 (川古窯ノ谷下窯跡)

**三 島 唐 津**

三島唐津：朝鮮半島で用いられていた白土による技法の装飾を日本では三島と称し、その技法を唐津焼の装飾に取り入れたものをいいます。白化粧土を用いた刷毛目・象嵌・印花・二彩などがあります。

刷毛目：白土を刷毛や筆で塗るもので、櫛刷毛目や打刷毛目の技法があります。

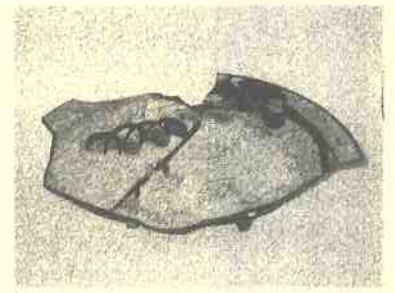
二彩：刷毛目の上に鉄、銅を使って文様を描いたものです。

象嵌：線彫りや印花のあと、白土や赤土を埋め込み、少し乾いてから表面を削り、くっきりした文様とします。

型紙摺：染物の型紙を使って白刷毛目を施し、文様をだしたものです。

搔落し：刷毛目を施したあとに、文様を竹べら等で線彫りしたものです。

印花：素地が乾かないうちに印を押して文様としたものです。



二彩唐津松文大皿 (釜ノ頭窯跡)



二彩唐津刷毛目文大皿 (白木原2号窯跡)



二彩唐津菊花文瓶 (白木原1号窯跡)



三島象嵌綾杉文椀片 (裏・表) (古屋敷窯跡)